

# 社会科(公民的分野)学習指導案

日 時：令和6年〇月〇日(〇)第〇校時

学 級：第3学年〇組〇名

場 所：〇年〇組教室

## 1 単元名

民主政治と政治参加

## 2 単元設定の理由

### (1)めざす生徒の姿

テレビやインターネットでのニュースから注目されるような選挙(大統領選挙、国政選挙、首町選挙)について、候補者や結果などを知っている生徒は多くいる。しかしながら3年後には、自分が一人の有権者として一票を投じることになることや、その際、自分はどのように投票者を選ぶのか、ということについて、考えをもっている生徒は少ない。そこで、注目された選挙など、生徒に身近なニュースを取り上げるとともに、近年の選挙活動におけるSNS等のデジタル技術の役割にも着目しながら、民主政治の基本となる考え方を理解するとともに、主体的に政治に参加しようとする態度を養っていききたい。

### (2)教材観と指導観

本単元は、中学校学習指導要領第二章第二節社会の公民的分野の内容「私たちと政治」の中項目「イ 民主政治と政治参加」の内容に基づいており、内容は以下の通りである。

#### イ 民主政治と政治参加

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。

そのため本単元では、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現することを通して、我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することが求められる。

そこで本単元では、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解だけでなく、民主政治を推進するためには、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加が必要となることや、国民一人ひとりが政治に対する関心を高め、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画するうえでSNSの働きが大きいことについて、取り上げることで、主体的に政治に参画しようとする態度を養いたい。

## 3 単元の目標

- ・法に基づく民主政治の基本となる考え方を理解する
- ・主体的に政治に参画しようとする

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。	民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。	民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

#### 5 単元の指導計画と評価計画

時	学習活動	評価規準・評価方法		
		知	思	態
1	民主政治にしくみを理解する	○		
2	選挙制度のしくみや特徴を理解する	○		
3	政党政治と民主政治の関係を考える		○	
4	主体的に政治に参画するための方法を考える			○

#### 6 本時案

##### (1)主 題

主体的に政治に参画するための方法を考える

##### (2)目 標

有権者の一人として、インターネットを有効に活用して、政治に参画する方法を考える

【主体的に学習に取り組む態度】

##### (3)デジタル・シティズンシップの学習テーマ

【ニュースとメディアリテラシー】

##### (4)展 開

	○学習活動 ・生徒の反応 「 」指導者の問いかけ	・指導上の留意事項 ◆評価規準(方法と観点)
導入 5	○前時の内容を振り返る。 ・政党 公約 有権者の判断	・前時の学習を振り返る。
展開 1 2 0	○政治参加についての方法や意識を確認する。 「政治参加にはどのような方法があるかな」 ・選挙 ・立候補 ・利益団体、運動(集会・デモ) ・請願 投票することへの意識とその理由 ・行く ・行かない ・わからない ・選挙は大事 ・誰でも一緒 ・誰がいいかわからない ・面倒  ○年代別投票率のグラフから選挙の課題について考える。 ・50代以上の投票率が高い ・30代以下は投票率が低い ・投票率の低い若者や子育て世代向けの政策よりも、投票率の高い高齢者向けの政策が強調される可能性がある	・選挙に関わる時事ニュースの話題から政治参加の方法について確認する。 ・既習の内容として、18歳選挙権や請願権などについて簡単に確認する ・授業の前後で意識の変容があるかを見取るため、投票に行く気持ちがあるかどうかを確実に聞いておく。  ・年代ごとの大まかな特徴に注目し、グラフからわかることを考えるように促す。 ・投票率の高低が政治にどのような影響を及ぼすかについても考えられるように問いかける。 ・不信感、無関心から支持政党なし(無党派層) も多いことに注目させ、世論の形成とマスメディアにつなげる。

	<p>○世論とマスメディア、メディアリテラシーについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者はインターネット(SNS)で情報を得ている傾向がある</li> <li>・マスメディアの情報が世論に大きな影響を与えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が情報を得ている手段を確認するとともに、一般的にはテレビ・インターネット・新聞が情報源であることを確認する。</li> <li>・インターネットは、令和3年衆議院議員選挙と比べ令和5年参議院議員選挙での参照割合が増加していることに注目する。</li> </ul>
<p>展開 2 4 0</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">活用 インターネット×政治 投票意欲を高める方法を考える</p> </div> <p>○インターネットを活用して投票意欲を高める方法を考える。</p> <p>課題1 誰に投票していいかわからない (候補者や政党の違いがわからない)</p> <p>課題2 選挙にあまり関心がない</p> <p>○実際に行われている工夫を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公約比較、ポートマッチ、選挙情報サイト</li> <li>・候補者の個人SNS など</li> </ul> <p>○インターネットでの情報収集の注意点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシー</li> </ul> <p>→メディアの情報を批判的、客観的に判断し、活用できる力</p> <p>→フィルターバブル、エコーチェンバー現象</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">行動規範 「ワクワクのプロセス」を確認する</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題1か2を選択して考えるように促す。</li> <li>・実現できるかどうかにとらわれず、自由な発想で考えるように促す。</li> <li>・自分が知っている工夫を紹介してもよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用して、実際に行われている工夫を紹介し、生徒が政治に関与しようとする気持ちを持てるようにする。</li> <li>・特定の候補者や生徒への投票を促すわけではない。</li> <li>・メディアリテラシー、フィルターバブル、エコーチェンバー現象などの既習の内容を確認する。</li> <li>・情報を収集する際には、フィルターバブルやエコーチェンバー現象などに注意するとともに、立ち止まり、考えて行動することの大切さを確認する。</li> </ul>
<p>まとめ 5 0</p>	<p>本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">自律</p> </div>	<p>◆インターネットを活用して政治参画することについて、自分はどのように行動するか考えているか。(主体的に学習に取り組む態度)【記述】</p> <p>*授業の最初の考えとの変容を意識するよう声掛けする。</p>